

# 令和3年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会 報告書



日時	令和3年10月28日(木) 18:30~		
場所	東山支所		
参加者数	27人		
市側出席者	市長	北	猛俊
	副市長	石井	隆
	教育長	近内	栄一
	総務部長	稲葉	武則
	スマートシティ戦略室長	西野	成紀
	市民生活部長	山下	俊明
	保健福祉部長	柿本	敦史
	経済部長	川上	勝義
	建設水道部長	小野	豊
	教育部長	亀淵	雅彦
	企画振興課長	関澤	博行

## 【市長 開会のあいさつ】

本日は足元の悪い中、地域懇談会にお集まりいただき、お礼を申し上げます。日頃から行政運営にご協力、ご支援をいただき、地域振興の発展に貢献をいただき重ねてお礼申し上げ、敬意を表します。新型コロナの発症から2年になり、この間、行動自粛ということで巣籠もり状態が長く続いています。地域を代表するふるさと祭りも中止になっています。東山地区をふるさとにしている方々が大勢集まり、地域を代表する大きなイベントでしたが中止ということです。ストレスが重なる中で健康にも気遣いながら不自由な生活を強いられてきたと思います。10月1日、緊急事態宣言が解除され、11月からは規制を少しずつ解除すると聞いていますので、新しい生活を取り戻す平安な環境を取り戻すという活動が始まってくると思っています。感染防止には十分気をつけながら、元の生活に戻す動きが活発になることを祈念しています。

地域懇談会の内容は、地域の課題や日頃から行政に対して感じていること、意見を言いたいというようなことがあれば、遠慮なく言っていただきたいと思います。情報提供では、JR北海道が自社だけの経営維持は困難として、今年7月に根室本線対策協議会が開かれ、JR北海道が提案している内容を協議会として受け入れ、協議を進めているところです。その経過について説明します。また、未来をつくろうという部分は、ICTを活用した利便性が高く暮らしやすい、生活がしやすく潤いのある環境をつくる取り組みをしていますが、その中で、AIを活用したオンデマンド交通の実証実験を市街地で実施する情報提供を行います。この関係についてもご意見をいただきたいと思います。

### 自治会（地域コミュニティ）

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
○ふるさとまつりが2年間も中止になり、何かできないかと考えて花火大会を行った。何十年ぶりに東山で花火が上がるのを見たと言って、大変喜んでいました。今後もこのような活動に協力をお願いしたい。	

## 公営住宅

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○義務教育学校の準備が進み、来年度から開校する。常に考えているのは子どもたちの多様性。地域の戸数が減ってく中で、どのように魅力のある学校にしていくか。ICTを活用した勉強と農村地帯を体験できるなど、汎用性の広い子どもたちを育てることを目指している。しかし、農村地帯は労働者不足の課題がある。市街地の子どもたちの中で農村に住みたいという子どもがいたら受け入れる体制をつくりたい。そのためには住宅の問題がある。住む人が先か、住宅が先かはわからないが、住む場所がなければ人も来ない。公営住宅は浴室がなく、トイレも水洗ではない。農家にある空き住宅を市で改修したら、そこに住んで家賃も入る。どんな方法でも良いのでこの地域に人が住める環境をつくってほしい。</p> <p>○公営住宅は昨年も同じ意見を出しているが、何も変わらない。長屋の公営住宅が2棟あるが、1年中落雪防止の板が貼り付けられている。3件しか入居していない。整備することで農業後継者が住むことができる。農業後継者は親と一緒に住まないのが現状で、西達布の公営住宅は東山市街地よりも程度が良く、農業後継者が入れ替わりながら住んでいる。東山市街地の公営住宅も、潰れるのを待っているより、風呂とトイレを修繕して住めるようにしてほしい。</p>	<p>○農業後継者の方が住むような住宅ということですが、公営住宅の趣旨としては難しいと考えています。しかし、現在の公営住宅には風呂もなく、トイレも水洗になってない状況ですが、そうしたことを解消して修繕することで使えるようにしたいと思います。それで住みたいという需要がどのくらいあるのかなど、地域の方々とどういう形が良いのかを協議したいと考えています。</p> <p>○東山市街地の公営住宅は政策的に空けている状況もあります。どこを優先して対応するかは検討させていただきたいと思います。</p>

## 道路

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○地域要望の中で、毎年道路のことが出ている。砂利道の砂利が流されて、グレーダーをかけるが、本当に砂利がなく泥の状態になり、雨が降ると畑に行けないこともある。砂利道の泥水が流れての側溝の役割を果たせない。そういう場所を改修してほしい。道路脇の樹木は切ってもよいのか判断できないので市で管理してほしい。</p> <p>○砂利のない道路や水が流れない側溝の場所は把握していると思う。予算を組んで計画的に全面的な取り組みをしてほしい。随時対応するので報告してほしいとなると、かなり多くの箇所が出てくる。機械も大きくなりトラックも4mでぎりぎりの状況。走れない道路も結構ある。</p> <p>○令和4年度の要望書をつくるため、町内会の要望を聞き取ってまとめている。これまでの要望が進んでいないため、要望を出しても不満が溜まる。優勢順位を決めながら要望を市に提出しているが、どこをやったのか見えてこない。平沢地区で河川に堆積した土砂を上げてくれたが、改良区の暗渠工事が始まる。河川や側溝の堆積した土砂をきれいにしないと効果が出ない。そうした事業に影響がないように対応してほしい。</p>	<p>○砂利道の関係は、市職員がパトロールしながら、グレーダーや砂利敷きを随時対応しています。支障箇所があれば教えていただきたいと思います。砂利道や畑の土砂が側溝に流れ込んで埋める状況は多々あります。パトロールをして支障箇所の対応をしていますが、全てを把握することは難しいため、報告していただければ随時対応したいと思います。道路沿いの雑木についても、パトロールで木が茂って道路の見通しが悪くなるような状況を確認した場合に随時対応しています。気づいたところがあれば連絡いただき、随時対応したいと思います。</p> <p>○優先度の高いところからやっていくこととなりますので、振興会の要望書を見て詳しく話をさせていただきたいと思います。</p>

## 農業（鳥獣被害）

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○アライグマ被害が非常に多い。シカは柵の中で生まれて育っているので完全に慣れている。自分たちで何十万円もかけてシカ柵を作っているが、これから若い人が農家をしていくことを考えると、被害は深刻な状況。クマは西達布で人が襲われる被害が出た。大型コンバインで麦を収穫していたら 100m 先でシカを追いかけるクマを見かけた。クマも人に慣れていて逃げない。シカとクマを少しでも減らす方法を考えてほしい。猟友会に頼んでも来たときにはいなくなっていることが何回もある。罠を仕掛けて個体を減らしてほしい</p> <p>○アライグマやシカだと人には被害がないが、クマは危険なので箱罠で減らすことを考えてほしい。</p> <p>○隣の家でクマが庭先に出た。子どもだけで遊んでるときにクマが出ると怖い。箱罠で個体数を減らしてほしい。</p> <p>○シカやクマを猟友会に頼むことは大事だが、時間も限られている。本州ではくくり罠に移っている。安全面でも罠が効果的。銃を撃つよりは罠の方が資格取得が容易ではないか。取得者を増やすこともできる。罠に精通した専門の人を市で雇用して対応してほしい。</p> <p>○くくり罠は免許を持っていないとできないのか。例えば自分の敷地内でシカやクマを駆除できるような規制緩和はできないのか。自分で罠を仕掛けて罠にかかったら連絡するという体制はできないか。農家はどこにシカが出るのか知っている。そこに罠を仕掛けることができるような規制緩和をしてほしい。</p>	<p>○鳥獣被害は非常に大きい状況です。シカは年間 800 頭、アライグマは 167 頭が捕れています。市ではアライグマなどの中型動物の駆除をする電柵への支援をしています。中山間事業ではシカ柵修繕の予算も持っています。令和 4 年度からは中型動物対策の予算を中山間事業に移し、シカとアライグマの両方で使えるようにします。箱罠は市で所有しているので、必要なときは相談してください。</p> <p>○クマの駆除方法は猟友会と意見交換をしています。4月に起きた事故を考慮し、連絡体制や2人体制で距離を離さないようにすることを確認しています。目撃情報があればパトロールを繰り返すしかないと考えています。</p> <p>○猟友会には40名くらいの会員がいます。そのうち駆除で動ける人は少数で負担も大きいと聞いています。罠の免許を持っている人もいたので、そういう人を増やしていきたいと考えています。</p>

## 防災

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○樹海小学校は避難所になっているが発電機がない。発電機は市役所が保管していて運搬設置することになっているが、道路が寸断されたときは避難所にならない。</p> <p>○実際、過疎地が特にひどい被害が出る。道路が寸断した場合、電気がない状態では避難所にならないので、直ぐに対応してもらいたい。</p> <p>○文化会館で車の電気を使った実験をしていた。プリウスで1500ワットの器具だと3日間使える。簡単な照明や暖房程度なら車1台で間に合う。その都度発電機を持ってくるのではなく、地域にハイブリッド車があれば、その人に頼む約束事をしていれば、より早くに対応できる。ハイブリット車なら地域に必ず1台はある。発電機の設置までに時間がかかるのであれば、そういうものを地域全体で把握して対応してほしい。学校以外にも地域会館が避難先になっているのであれば、近くにあるハイブリット車でお願いする形の方が早くに対応できる。</p> <p>○最近蓄電池の性能が良くなっているので蓄電池という発想もあって良いのでは。</p>	<p>○樹海小学校は外部電力が接続できますが、発電機は常時設置していません。発電機は計画的に増やしていますが現在のところ3台です。停電時に必要な場所に運搬していくことになります。</p> <p>○平成25年10月に雪で道路が寸断しました。この地域に置く場合は支所になると思いますので、道路が寸断したときは農家の方に運搬を協力していただくこともあります。避難所すべてに設置することはできませんが、地域に置くことは検討したいと思います。</p> <p>○ハイブリッド車は広い避難所では対応できないかもしれません。発電機を置くという根本的な対応とは別に、利用可能だと思いますので、あわせて検討したいと思います。</p> <p>○発電機は1機500万円くらいしますので、少しずつ増やしているところです。ハイブリッド車から携帯電話を充電するなどで、少しでも皆さんの手助けになるよう、公用車をハイブリッド車に変えています。今後、地域に1機ずつ発電機を置いた拠点をつくり、そこから運ぶということも検討したいと思います。</p>

## 公共交通（路線バス）

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○高齢になって運転免許を返納したらどうかというアンケートが来た。バスに乗って富良野市街地に行っても帰りのバスまでに3時間も待ち時間がある。病院は休む場所があるが、買い物はコミュニティカーと公共バスを利用してスーパーまで行く。帰りのバスまでの待ち時間が問題。バス停の近くに年寄りがテレビを見ながら1時間くらいバスを待てるような場所をつくってほしい。いろんな地域から年寄りがバスで買い物に来て、帰りのバスまで気軽に待つことができる場所があると良い。できないのであれば、帰りだけはタクシーを使うような割引券があると良い。月1回程度で良いので、行きはバスで行って帰りは何人かの乗り合いでタクシーを利用できるようにしてほしい。この地域で老人2人暮らしだと買い物に行けない。病院に行くときでも帰りのバス時間に間に合うように急ぐので食事も取らずに帰ってくるしかない。年寄りが免許返納しても、この地域で暮らせるシステムを考慮してほしい。</p> <p>○コミュニティカーは学生やお年寄りが自由に東山まで来ることができるようになり、本当に嬉しく思っている。東山まで来ても農協と郵便局の金融しかない。農協の支所は今年でなくなる。総括していろいろと工夫したことを考えてほしい。バスは便利だが車が運転できるうちは乗ることがない。しかし、自分が高齢になったときにないと困るので、工夫していろいろ考えてほしい。</p>	<p>○アンケートを行いながら富良野全体の公共交通網を検討しているところです。それに先立ち、ちょい乗りタクシーという実証実験を行います。スマートフォンでタクシーを呼び、AIが最適なルートや運行時間を算出し、最適な配車を乗り合いで運行するものです。マイカーがなくても安心な生活を実証するというものです。運転免許証を返納した高齢者の足の確保や、小さな子どもを連れて買い物や病院に行くようなニーズに対応するものです。家の前から目的地まで運ぶのではなく、エリア内に仮想停留所が200ヶ所あり、スマートフォンで予約するときには仮想停留所が100mから150mの間隔で設置されているので、乗りたいところの停留所と目的地を押しして利用します。富良野市民であれば誰でも利用できます。東山の皆さんは路線バスを使って買い物や病院に行ってもらいますが、帰りのバスまでの時間、病院からスーパーに買い物に行くときや、買い物をしたときには荷物を持つのが大変ということもあります。そういうときに利用できます。休憩できる場所としてはフラノマルシェもありますので、ちょい乗りタクシーを使って市街地で待ち時間を潰すという方法も考えていただきたいと思います。</p> <p>○現在、富良野市の公共交通計画を作るため、市内全域の皆様を対象にアンケートを実施し、要望を取りまとめているところです。合わせて、JRとバスを利用している方の用途や頻度についても調査しています。市内の交</p>

○公共交通のアンケートがあったので、占冠から旭川の役所に行き、それぞれの状況とサービス内容を聞いてきた。富良野市の公共交通を担当している人たちは、近隣や全国的な先進事例の資料を取り寄せていないのではと感じた。他市町村のやり方も参考にして、良いアイデアがあればそれを紹介してどう思うのかを聞いてほしい。アンケートでどういうものを望みますかでは、答えようがない。アンケートを取るにしても、一歩踏み込んで考えやすいようなアンケートにしてほしい。バスに乗る人が少ないのであれば、もっと料金を安くしてワンコインで行き帰りできるシステムにしてほしい。他市町村でも本当に苦労している。東山からバスに乗ると片道 650 円。往復で 1300 円。西達布だともっとかかる。年金暮らしだと負担が大きい。富良野に移り住むのではなく、自分の家で暮らし続ける人は増えると思うので、高齢になってこの地域から出ていかなくても生活できる姿を見れば、この地域は素晴らしいところだから、利便性もあるし、空気もいいし、景色もいいし、東山に住みたいと思ってくれるようになる。そういう施策をつくってもらいたい

○全国で学校に行けずに困っている人がたくさんいる。東山が素晴らしいモデル地域になれば、親と一緒にきてきて人が住んでくれる。街に買い物に出るのに免許がない人はバスを使わなければならない。交通システムが確立されて初めて地域を豊かにできる。そういう点で考えを聞きたい。

通は路線バスのほか、東山地域ではコミュニティーカーがあります。コミュニティーカーは、島ノ下と山部でも運行しています。様々な交通がありますが、スムーズな移動ができないという状況があります。令和 4 年度中に富良野市全域の交通をどうしたら便利なものにするかを検討し、計画に反映する予定です。先ほどの意見も取り入れながら進めていきたいと考えています。公共交通計画の策定には、各学校の関係者のほか、バス会社やタクシー会社も交通事業者として入っています。より便利な公共交通になるように、市内の利便性や地域とのつながりを良くする方法を検討しますので、引き続きご意見を賜りたいと思います。

## 公共交通（鉄路）

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○鉄道の最も大きな役割は大量輸送。農作物は季節にもよるが利用量が多い。その点でJR北海道はどのように考えているのか。</p> <p>○JR北海道の話を聞いていると部分的な線区の話しかない。北海道新幹線は東京から青森はJR東日本。青森から札幌は北海道新幹線、将来的には北海道新幹線は赤字になる。富良野線と根室線は東北と道東を結ぶ路線で、JR北海道とJR東日本は東京と北海道を結ぶ路線というように大きく考えなければ、黒字になる路線は札幌から新千歳空港の路線しかない。JR東日本とJR北海道という大きな形でやらなかったら、いつまで経っても同じこと。国もJR北海道は最初から赤字だとわかっていた。JR東日本も含めて進めていけば、少しは変わるのではないか。</p>	<p>○農作物の運搬はJR貨物が運行しています。検討状況を明らかにする段階で説明したいと思います。</p>

## 交通安全

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○老節布の樹海小学校から麓郷方面に向かう道路がある。十字路をまっすぐ行くと、市道の簡易舗装になっているが、その交通量がすごく増えて心配。バイクや観光バスも通り、スピードも出している。市道なので道路を拡幅するには地域住民が土を提供しなければならない。児童が歩いているので、市でパトロールしながらいい方法を考えてほしい。</p> <p>○車1台程度の狭い簡易舗装の道路が、今年になって急にカーナビの影響で交通量が増えている。市で交渉してカーナビから外すような対応はできないのか。警察の協力も得ながらいい方法を考えてほしい。</p>	<p>○看板を立てて注意喚起したり誘導することはできると思います。スクールゾーンと表示することも可能です。難しい問題だと思います。</p>

## 中心市街地活性化・へき地過疎

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○中心市街地の五条通と相生通りの民間アパートに移住した場合に補助金が支給される市の補助制度がある。富良野市の中で一番便利で住みやすい場所に移り住む助成があれば、過疎地域にいる人間も市街地域に住んだ方が良く考える。市は過疎地域から人を取るようなことになっている。助成の対象が市外からの転入者のみなら人口を増やす目的だと理解できるが、市内の人も対象になると僻地から移り住む人もいる。中心市街地の賑わいになるかもしれないが、過疎地域は人口減少が加速することにつながるので、その辺りを精査して市政に反映してほしい。</p>	<p>○まちなか居住促進事業です。まちの中心市街地活性化の重点地区というまちの中心部ですが、その区域外から移り住む人に最大15万円の補助金を出すものです。実績は年間1件から4件程度です。</p>

## 教育

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○学校には理念が必要。頭だけが良くても人格が良くないと困ることが世の中にはたくさんある。人格形成をするために何が必要かということを考えてほしい。当たり前のような学校に行けることは素晴らしいこと。周りの全ての人たちが苦勞して作り上げてきたシステム。周りの人に感謝する気持ち。全てのものがある。自分もその全ての中の1人であるという感覚を育ててほしい。</p> <p>○地域の人たちが、カボチャや畑づくりの手伝いと資金造成をしている。作ったカボチャを子どもたちが自分で値段を決めて売ることが学べる学校は、道内にはあまりない。例えば学校の先生が赴任してきて一番驚くのは地域の人との深い関係。それを義務教育学校の中では絶対に忘れてはいけないと思っている。樹海小学校には畑はなかったが、お願いして作ってもらった。独特な魅力のある学校ができればいいと思っている。例えば筑波はそういうこと先進地で、毎年行くことがあるので、時間があれば見てきたいと思っている。山村留学をやるにしても住むところがないのでお願いしたい。</p>	<p>○地域の皆さんが、なぜ義務教育学校にしようと思われたのかですが、元々この地域は学校を中心に、地域や振興会の方々が一緒になって地域づくりをしていこうと、東山地域の教育懇話会を年に数回開催し、小学校、中学校、保育所の職員、保護者とPTA、地域の方と幅広く、毎回40人くらいが集まり、子どもたちの社会性、命や家族の大切さを人と触れ合うことで、しっかり育んでいこう。もう一つは樹海中学校の学校農園について、毎年素晴らしい農作物を地域の保護者、地域の方々の応援で学び、食の大切さや優しい心を学んでいます。この地域の自然環境で、地域の方々が学校に入って一緒に教育環境をつくっています。結果として、この地域は勉強のできる子や心の優しい子、スポーツを頑張る子がたくさんいます。何よりすごいのは、卒業する方々からこの東山地区が大好きだという話を聞きます。人口が少なくなってはきていますが、樹海学校という新たな学校で、しっかりと育みアピールする。情報社会ですから、いろんな形でアピールすることができます。交流も地域の方々が一生懸命やっています。地域ぐるみで子どもたちを育てていく中心に樹海学校があるということで準備会の方々も一生懸命知恵を絞っています。魅力を感じる方々が移住したり、樹海学校を目指して子どもと一緒に移住したいという人たちが増えることを目指したいと考えています。</p>

## リサイクル・脱炭素

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○市で製造している固形燃料は札幌の業者に90%ぐらい納品している。厚別にある工場は人口密集地だったが、富良野市で作っているものなので地産地消し、富良野で発電とか地域暖房を推進できないか。</p> <p>○道東の方ではメタンガスを使用した発電や、土別でもペレットや木材を使った発電が行われていると聞いた。富良野でも、固形燃料だけじゃなく、農作業で出てくるビニール類など、様々なものを取り入れることで、もっと多くのものが確保できるようになる。その辺にある風倒木も演習林と話し合いながら使っていければ、もっと魅力的な森になる。そういう考え方をしてほしい。</p>	<p>○固形燃料のRDFは札幌の業者に販売していますが、製造している1割ぐらいは、ハイランドふらののボイラーで使用しています。生涯学習センターにも冬期間のボイラーで使っています。ハイランドふらののRDFボイラーは、試行錯誤をしながら順調に動き出しています。24時間運転を目指して調整運転しながらデータを取っているところです。このデータを活用して発電の可能性を検討するなど、固形燃料を市内で消費してゴミのリサイクルを地産地消という形で目指していきたいと考えています。</p> <p>○国が脱炭素を訴え、市も4月にゼロカーボンシティ宣言をし、脱炭素に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。その中で、電気は一つのポイントになると思っています。将来に向けて、この鍵になる電気を固形燃料を使ってやれないかと考えています。固形燃料を電気に変えていくには、リサイクルを進めて燃料に変えていくことが必要です。紙おむつもリサイクルして燃料にできないかを試験していて、実用化に向け、目処が立っています。また、雑木を混ぜた発電は、脱炭素として電気の供給にもなると考えています。</p>

## 【市長 閉会のあいさつ】

本当に地域に長く課題になっている部分について、ご意見をいただきました。すぐできるもの、そして時間のかかるものがありました。地域の未来をつくるということから考えると、将来的に継続して行えること、継続できる地域をつくっていくという捉え方が大事になってくると思います。本日の課題も、直ぐに解決できるもの、時間はかかるけれどもより良いものにしていけるもの。そんなことで整理をさせていただきたいと思います。ゼロカーボンの関係は電気の話になりましたが、ほかの会場では出なかった話題です。ゼロカーボンに向かうには、再生可能エネルギーが鍵になります。再生可能エネルギーは電気です。太陽光や水力など、様々な方法があります。電気の利用は北電ですが、地域で発電したのも地域で利用可能な形に制度を変えていく、そんな国に対する働きかけも必要になってきます。富良野全域が再生可能エネルギーや固形燃料を活用して電気を発電するという自家発電の電気で生活ができるような社会をつくりたいと考えています。

本日は地域懇談会ということで、皆さんから意見をいただく場をつくらせていただきましたが、市役所はいつでも皆さんの声を聞く体制をとっていますので、何かお気づきの点があれば、遠慮なく役所に来ていただいて、ご提言をいただきたいと思います。

小さなことを積み上げて、まちや地域の魅力をつくっていくことになりますのでご理解をいただきたいと思います。

## 【参加者アンケートの主なご意見】

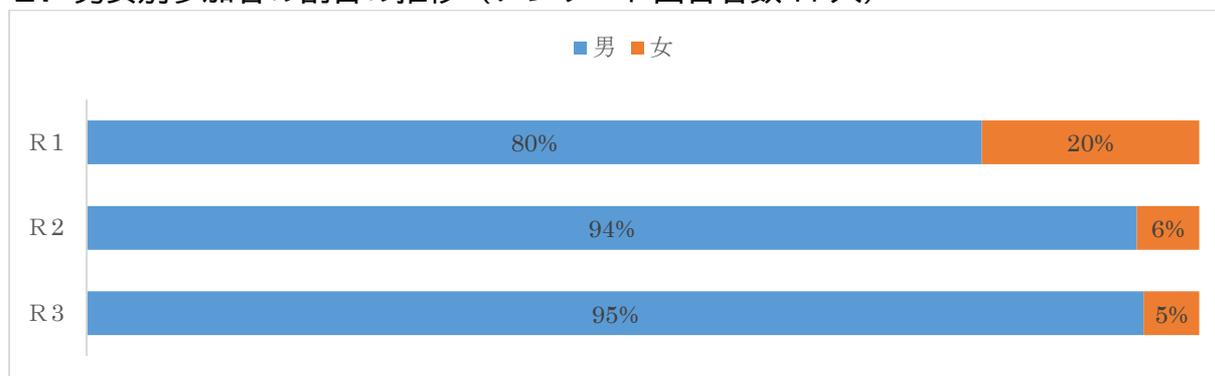
年齢区分	性別	ご意見
40-49 歳	男性	グーグルナビで細い道でも多くの観光客が通るようになり、人がひかれそうになっている。業者に伝えるなどして安全な道路にしてほしい。観光客が増えてゴミがひどい。歩道がないので子どもが歩くときに危険。北の峰の土地を外国人に売り過ぎ。観光客にふらの割りするなら地域に使ってほしい。
60-69 歳	男性	クマとシカは演習林とも協力してほしい。学校跡地は次世代の若い人たちが技術を習得したり学習する場にしてほしい。
60-69 歳	男性	お互いの協力関係がなければ、まちづくりはできない。

# 令和3年度「地域懇談会」アンケート集計結果

## 1. 参加者数

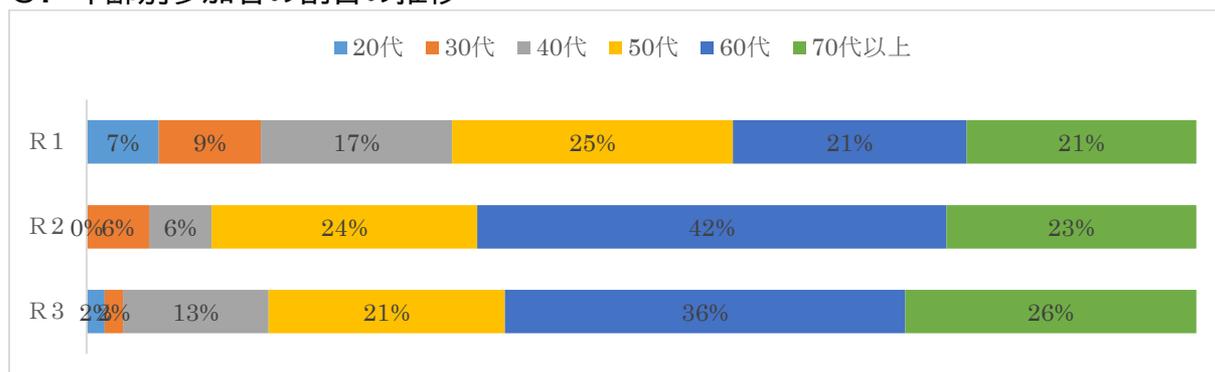
	場所	地区名	H30	R 1	R 2	R3
10/21	文化会館	朝日会館	29	24	20	11
		栄町コミセン	30	33		
		北の峰コミセン	28	26		
		西地区コミセン	56	52		
		未広コミセン	40	42		
10/20	ふれあいセンター	布部会館	23	26	7	7
		鳥沼会館	38	28		
		東春コミセン	29	22		
		南コミセン	51	32		
		瑞穂コミセン	55	21		
		麻町児童センター	27	29		
10/27	山部福祉センター	山部福祉センター	24	22	18	17
10/28	東山支所	東山支所	32	40	24	27
10/26	麓郷集落センター	麓郷集落センター	34	39	10	15
		布礼別集落センター	27	17		
計			523人	453人	79人	77人

## 2. 男女別参加者の割合の推移（アンケート回答者数 71 人）



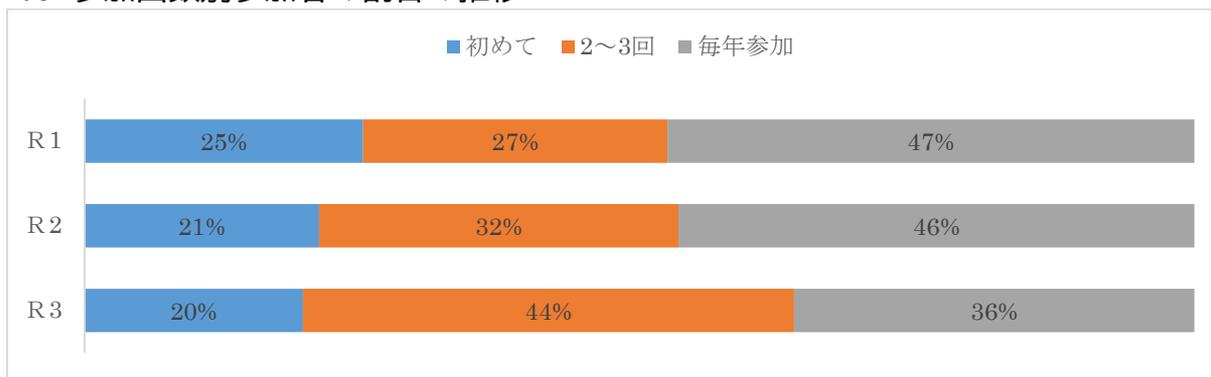
男女比率は昨年度と同程度

## 3. 年齢別参加者の割合の推移



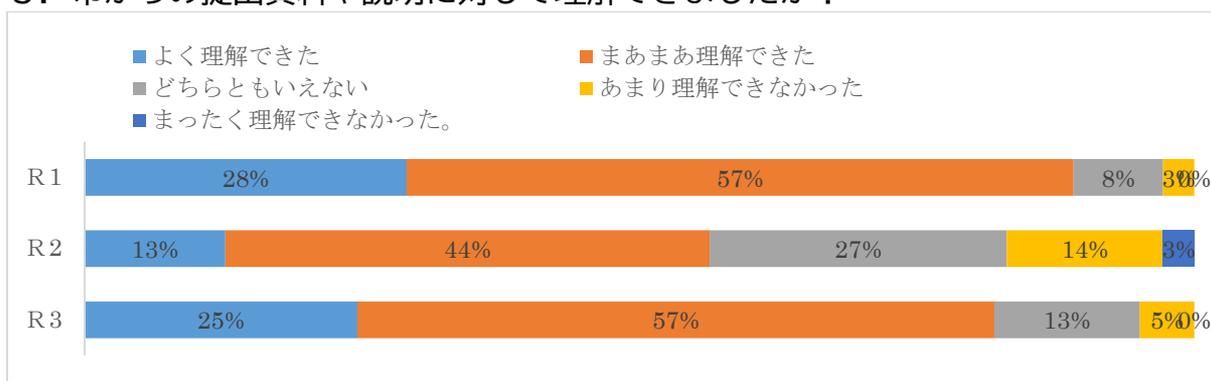
60歳代以上が52%。50歳代の現役世代は48%の割合

#### 4. 参加回数別参加者の割合の推移



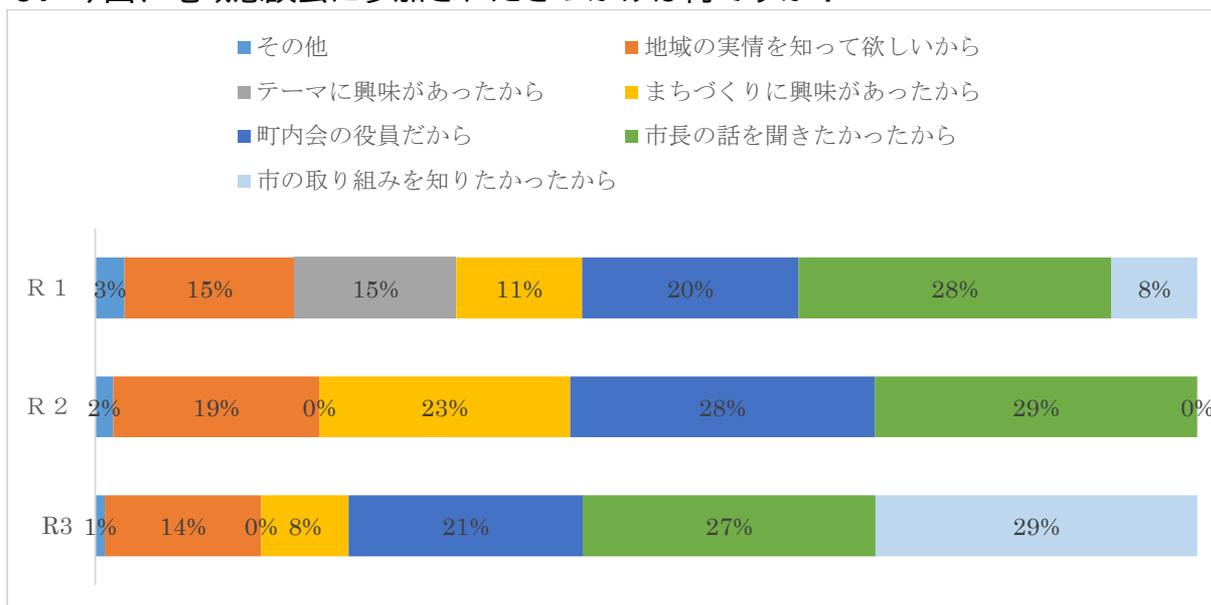
2～3回参加の割合が44%と最も多い

#### 5. 市からの提出資料や説明に対して理解できましたか？



理解できなかった5%に対し、理解できたが82%と高い割合となった

#### 6. 今回、地域懇談会に参加されたきっかけは何ですか？



「市の取り組みを知りたかった」が29%と最も高く、「市長の話を聞いたかった」は27%、「町内会役員」は21%だった。